キャンパスレポーターが行く！

研究室訪問

仲本　大輔　准教授　プロフィール
氏名：仲本　大輔（ナカモト　ダイスケ）
所属：大分大学経済学部
　　経営システム学科
専　門：経営戦略論
最終学歴：横浜国立大学大学院
　　国際開発研究科
　　国際開発経営専攻
　　博士課程後期　修了
主な研究：業界標準をめぐる企業の経営戦略、
　　地域ブランドに関する研究

今回のキャンパスレポーターは別府鶴見丘高等学校ＯＢで経済学部３年の山永真乃さん。

そして、後輩の別府鶴見丘高等学校２年生の桑畑七星さん、村下樹さんです。

経済学部　仲本大輔准教授の研究室を訪問してインタビューしました。

どんなことを研究していますか？

山永：今回は私たち 3 人がキャンパスレポーターとしてインタビューしたいと思いますので、よろしくお願いします。

桑畑：先生が所属されている経済学部の経営システム学科とはどのような学科ですか？

仲本：経営学という分野の研究と教育を行っている学科です。

企業の活動の動きや、企業がどのように成長していくのかとか、経営学ってさまざまな企業に関わる問題を研究する分野なんですよね。人をどうやって雇って、育成し、きちんと働いてもらうかということも考えるので、実は身近な学問じゃないかなという気がします。

村下：経営学を学んで、身近に感じられるところはありますか？

仲本：経営学ということになると、みなさんいずれ、企業とかにお勤めすることになる人がほとんどだと思います。そういったときに、実際に自分が働いている会社がどういうふうに動いているのか、勉強で学んだことと同じような論理で動いているな、というふうに気がつくことがあるかもしれません。

学生時代に何を学べるか

桑畑：私はマーケティングについてすごく興味があるのですが、経営とマーケティングってどのように関わっているんでしょうか？

仲本：すごく密接だと思うんだよね。僕の専門の経営戦略というのは、企業が数年後を考えた時、どういった目標を設定して、それを実現するために、どういった具体的なことをしなきゃいけないかということを考えていきます。それにはお客さんを増やしたり、ライバルの企業にお客さんが行っちゃうことを防ぐために、どうしたらいいのかということもやっぱり考えなきゃいけないよね。それは本当にマーケティングの話だし、ひいては企業全体の成長にも関わってくるから、本当にものすごく関係があるなと思います。

村下：自分は経営に興味があって、将来自分が起業して会社をやりたいと思っているんですが、そういうのを大学生の間ですることは難しいことです

か？

仲本：いや、そんなことはないよ。大学生の時に、具体的に製品やサービスを世の中に出したら世の中にものすごく役に立てるといった強い思いがあって、学生さんの時から起業して、それを大きく育てていったという方って、世の中探せばいくらでもいると思います。そういった方が大学生活をどんなふうに送っていたのかということも含めて勉強してほしいなと思います。

村下：海外での起業はしやすいというのをよく聞くんですが、海外の経営と日本の経営の大きな違いというのは何ですか？

仲本：非常に面白い分野で国際経営というのがあって、海外だとまず、住んでいる人が日本と全く違うということだよね。当然言語も違う、それから文化も違う、価値観も違う、生活スタイルも全然違うということを想定した上で、日本でつくったものがそのまま現地の人たちに受け入れられるということもあるんだけれども、やっぱりうまくいかなくて、ちょっと現地の人の好みに合わせたようなものを新たにつくって、それでやっと売り上げを回復したといった話もあります。

村下：経済、経営にいつぐらいから、何をきっかけに興味を持ったんですか？

仲本：僕もみんなと同じ高校生ぐらいの時って、経済学と経営学の違いが具体的にどうなのかというのははっきり分かってなかったんだよね。

大学に入って 1 年生の時に経営学概論という講義があって、そこで経営学の内容や研究を聞いて、面白いなと。

具体的な企業とかを取り上げて、その企業がなぜうまくいっているか、うまくいってないかといったことを考えることはかなり身近だし、自分が興味を持ちそうな企業って幾つでも見つかりそうだから、経営学のほうに進んで、今に至るという感じです。

母校に恩師にあたる先生がいっぱいいらっしゃるんですけど、そういった先生たちがすごく楽しそうに授業をされていて、ゼミの時でも、すごく楽しそうにいろんなことを分かりやすくお話してくださったので、それで、ますます経営戦略を中心に経営学を勉強してきた感じです。

大分は本当に魅力的なところ

桑畑：先生の好きな食べ物は？

仲本：僕はおすしが好きですね。僕の出身は横浜なんだけど、あっちはすごくマグロを食べるところなんですよ。

大分はすごくお魚がおいしいところなので、こちらで働くとなってからはおいしいお魚を安く、しかも地元で揚がったものを食べられるというありがたさをすごく満喫しています。安くて当然鮮度もいいし、ものすごくありがたく食べています。

山永：先生の地元と比べて、やっぱり大分県は温泉が多いんですか。

仲本：大分は気軽に温泉に入りに行けるという感覚で、当たり前のように思っているかもしれないけど、横浜は温泉に入りに行くとしたら、ちょっとした旅行になっちゃうので。

大分は本当にすぐ行けるところが幾らでも出てくるし、しかも入浴料が結構安いよね。

山永：じゃあ、大分はお得と言えばお得ですか？

仲本：温泉好きにとってみたらたまらんという感じだね。だから大分に赴任するときに、地元の友人や先生たちにいいなって羨ましがられて、温泉がいっぱいあるわ、食べ物はおいしいわ、めちゃめちゃいいところに行くじゃんと言われて、そうだと思いながらね（笑）。

桑畑：大分は田舎だから私はどこかに出たいとずっと思っていたんですが、改めて聞くと大分はいいなと思いました。

仲本：もしこれからの人生で一度外に出て生活するということがあると、そのときに地元の良さというのがものすごく分かるようになるんじゃないかなと思います。

～～取材を終えて～～

山永：高校生の目線から経済学部について質問をしていただくことというのはあまりないですし、皆さんとても真面目で、いろいろ考えてきてくださっていたのを今日知れることができました。私自身これから経営システム学科で学んでいく中で、後輩がここまで考えることができるんだから、私も頑張らないとなと思いました。

桑畑：ずっとマーケティングに興味があって、気になっていたことが今日聞けたので、すごくよかったです。また話を聞いていて、今までぼんやりと見えていた経済学部が面白いなと、すごく明るく見えてきました。地元の良さも改めて知ることができました。ありがとうございました。

村下：今日の話を聞いて経済、経営に関する関心も深まったし、そういう視点からも見られるんだという話を聞けました。もっと勉強して経済学部に入れるように頑張ります。